

わたぼうし新聞 第14号

発行者 わたぼうし連絡会  
発行日 1989年(平成元年) 2月25日

第14号の特集 「生きるとは I」

ある日  
生きることは  
さげふことか  
いや、生きることは  
時には  
そとつく  
溜息のようなものであってほしい  
—高木 護—

この新聞は障害のある人。ない人が自由にそれぞれの考え等を出し合い、主義、主張を越えて、お互いを理解し合う中から共に生きる豊かな社会を作っていくことを目的として発行しています。

## 特集 《生きるとは1》

このコーナーはいろいろなテーマについて、さまざまな人たちに意見を述べてもらうコーナーです。

### 生きるについて考える 地域住民・公務員

今回のテーマが「生きる」ということらしいので、自分なりに考えたことを書いてみたい。

今のシャバは、ちょっとヤバイんじゃない？地球の環境問題や人口の問題。そうして、添加物だらけの食べ物、お金もうけしか考えないエコノミックアニマルの日本人。世の中けっこうヤバイことだらけ、そんな中で本当に生きていくことができるのだろうか。

私は「生きる」ことに対して、ある種のこだわりみたいものを持ちながら日々を過ごしている。というのは、現代社会では生きているというより、むしろ、生かされているというのが人の生き方であろうと思っている。大半の人は、特に毎日を「生きる」ことに一生懸命ではなく、ひとつの流れに身を任せながら生活をしている。そうして、生活費を捻出していくことだけが、生きることであると考えているのだろうか。時には己の権利しか主張せず、互いに助け合う精神を忘れながら日々を過ごしているように思えてならない。一億総中流意識の中では自分たちの生活環境を自らが作っていくこともせず、すべてをお金でカタをつけようとしているようだ。

私がかって「わたぼうしコンサート」を通じて知ったことは、ハンディを持つ人たちが、自分が生きていくことに対してとても積極的に行動をし、そうして毎日を過ごしているということであった。

私は一人の生き物として己自身が生きていくために、その努力はしていかなければならないし、そうしてそのことは、自分の生きていく環境をも含めての生き方へのチャレンジでなくてはならないと思う。

今、私が取り組んでいる地域青年運動にしても、地域の中の青年一人ひとりが生き生きと過ごしていくためには、一体何をしなければならないかということ、その活動の基本に据えておかなければならない。

人が大勢の中で生かされていることに疑問を持ち、どうやったら生きていることを実感できるのかを求め、自分のできる取り組みを進めていきたい。そのことが私の生きることへのチャレンジなのである。

こんなに「ヤバイシャバ」であっても皆が手をつなげば、きっとよくなることを信じて……。

## 生きているについて 地域住民・養護学校教諭

もし、あなたが医者からガンと宣告され、あと残り半年の命といわれたら……。そんな時、誰しもが自分の命・生き方について、深く問われるのではないのでしょうか？一方現代を生きる私たちは交通事故など、あらゆる災害に出合うともわからないことを棚に上げ、自分だけは平均寿命の70歳ぐらいまでは生きるのではと、安穩と暮らしているのが普通ではないのでしょうか。

今回の「生きる」というテーマを与えられたことにより、私は「死」を常に身近な存在としてとらえ、相対する「生」、今この時の重みを大切にしなければいけないと、ひしひしと感じている次第です。それにつけても、母親・教師・主婦の三役はしんどく時間に追われ、最近では1年が矢のように早く過ぎ去っていくというのが実感です。皆さんはいかがですか？ 20代より30代は1年の長さが、ずいぶん早くなっていると感じて仕方ありません。

そこで、時間について考える前に、最近、私が読んだミヒヤエル・エンデ作「モモ」(岩波書店 1,600円)を皆さんにも是非、ご購入をおすすめします。本のタイトルに『時間泥棒と、盗まれた時間を人間に取り返してくれた女の子の不思議な物語』という添え書きがしてあります。内容はファンタジック・時間の真の意味を問うことで、大変おもしろかったと思うのです。ちなみに私は演劇になったものを観ました。

テーマから少し外れてしまったようですが、私も含めて、今この時から時間というものをリッチに使うことにしませんか。

## たわごと 地域住民・元石川県立養護学校長

私は金沢中央健康クラブと石川県健康クラブ協議会の会長をしています。なお、石川県健民運動推進本部くらしの中の体育本部員もさせてもらっています。当年74才、私ども会員と一緒に余生を精一杯生きています。

この文は、10月発刊B5版350ページ、実費1,800円の「健康なかま」という小著「あとがき」最後の項です。

私は近頃、どうも1~2年は長生きをしたようである。というのは、親はもちろん兄、それに下の妹弟は亡く、ただ1人残存しているからである。そうして、どうしてこうなったか考えています。

まず、週2回(月・木)午後1時30分から4時までクラブ活動をするからだと思います。その1日の日程は、体操30分・ラジオ体操やストレッチ体操・ゲームを40分・バレーボールのようなスポーツだが、試合に用いる球やコート、それにネットの高さは攻撃できないように高くします。とにかく、争うことなく楽しむもの、ジャンケン遊び、球送り、幼児のように遊びます。

次は、20分は好きなことを腰を下ろして駄べる、バドミントン・ピンポンをする人、

リハビリテーションやジョギングをしている60才過ぎの定年退職者もおられる。

それから30分はダンスや踊りをします。ダンスはフォーク・ダンス、踊りには健民音頭のような民謡踊り、最後に連絡ごとを話したり、仲間の中で旅行をした話、趣味の話などをします。とにかく、笑って手をたたいて運動をしている。

私はこの企画と広報紙（週間）渉外が仕事です。定年退職してもう10年以上になる。体を動かし、頭の体操、それによい仲間ができました。この会に出ないと、生体のリズムが崩れます。心臓と肺臓はもちろん、なんでも使わなきゃ駄目。「自転車は漕がなきゃ倒れる」。

## 生きるとは 地域住民・在宅障害者

僕は当新聞5号に載せていただいたTです。1977年10月に交通事故を起こして身体障害者になりました。現在も何の連絡もない相手であるS、Fのことは許せない気持ちで一杯です。しかし、いつまでも身体障害者になったことを悔やんでいても、時は帰ってくる訳でもないのだからと、今では僕も少し大人になりました。

現在は施設を退所して、家族と一緒に暮らしています。施設に入所していた頃から、よく送迎してもらっていたキリスト教の協会の人たちが、わざわざ七尾から家まで来てくれます。

近ごろ、よく母とケンカして「何であのとき殺してくれなかったのや」「誰が助けてくれと頼んだ」と、奇声をあげて怒鳴ることもあります。本当は「生きていてよかったなあ」「生かしてくれていて、ありがとう」の感謝の気持ちで一杯です。だって、生きていればこそ暑さや痛さなども分かるし、喜怒哀楽もあるのです。天の父なる神もきっと分かってくれます。

死んだらそれで終わりです。生きることは確かに難しいと思います。まして、僕のような何の役にも立つだず、両親に迷惑ばかりを掛け、おまけに国のお金でやっと生活している者でも、自ら死んだらアカンと思うのです。

それを何ですか。あの「なだしお事件」の船員たちは。たしかに、国土保全のために尽くしてくれるのはありがたいです。それなのに、子供が溺れているのにも拘わらず、手を貸さなかった。君たちは上司の命令がなければ何もできないのですか。もっともっと「生きる」ことへの意味を考えてもらいたいのです。

とにかく、自ら死んだら終わりです。やはり、人間として生まれてきたのですから、精一杯生きていかなければいけませんよ。何もできないこんな僕でさえも、生きていますから……。

## もりしり博士登場 ～ “ケア、付き住宅”～

諸君、コンニチワ。また、ワシが登場させられてしまった。前回のノーマリゼーションについて理解してもらえたかな。今回はケア付き住宅について講義をする。

諸君、ケア付き住宅とは重度障害者や高齢者が可能な限り、地域で自立していくように、必要なケアを保証するためのケアステーションの介助員が常置され、設備などにも障害に応じて工夫がなされている住宅である。北欧イギリスなどではノーマリゼーションの理念にもとずき、施設以上に重視されている歴史的な展開である。

我が国では北海道、札幌市、八戸市などで実現されているほかは、検討中にとどまっている自治体が、昭和61年以来かなりありそうである。分かってもらえたかな？

ワシも北陸で実現されるように頑張るから、諸君も応援してくれ。今回はこれでバイバイ。ワシへの質問をたくさん待っている。

(参考文献・現代用語の基礎知識)

## 50万人目のプレゼント・2

(昭和63年11月18日付き「北国新聞」より)

13号に掲載しました「50万人目のプレゼント」について下記の動きがありました。

高岡市営プールで昨年8月12日に起きた養護学校生徒を入場50万人目と認めなかった問題について富山法務局は昨年11月17日、障害者を認定書と記念品を渡す該当者から外したのは人権侵犯であると所長さんに文書による勧告、職員に口頭での説示を行った。

文書勧告は憲法で保証する基本的人権を侵害するものだと認め、法務大臣訓令による人権侵犯事件調査処理規定に基づき厳しい処分とした。

## プール問題に対する読者のご意見1

## 匿名希望者より

この種の問題は非常に難しく、とっさの判断で果たして自分自身がどのように対処できるかと甚だ不安です。

しかし、世の中に障害者の不遇を訴えれば、あるときはそれは美談となり、時によっては人々の涙を誘い、そんな処遇をした人に憤りぶつけます。それ故、障害者は実社会において特殊な存在と見なされ「外の人とは違うという差別の中で暮らしている」と言っても過言ではありません。

私も障害者の子供を抱えております。外出先で振り返り、振り返り、子供の姿を無遠慮に見ていく人の何と多いことか……。障害者が実社会に交じっても不自然でない世の中が来ない限り、今回のような問題は避けられないと思います。それには、施設が現在のよう

に隔離された場所ではなく、実社会に気安く参加できる所にあればと思います。今一度、国際障害者年のスローガン『完全参加と平等』を考えてみましょう。

## プール問題に対する読者のご意見2 石川県・子供が好きな一人より

もし、自分自身に最悪の事態が起きたならば言うに及ばず、その自分自身のことのみしか考えられない。人間社会に生きてさまざまなつながりを得ながらも、広い域での自分よりも本当に小さな自分だけの域でしかものごとの判断ができない。そんな弱い自分に気がついた時、改めて人間社会からの恩恵に頭が下がります。

私は、時々ボランティア活動に本当に熱心な方々に直面することがあります。最終的な責任がないとは言いながらも、そこまで自分自身を突っ込んでいく勇気と思いやりに心から感心し、尊敬の気持ちで一杯です。

今回の事件については、非常に複雑な気持ちが体中にかき巡り、なぜかイライラしてきます。前者を立てれば後者がみじめ、後者を立てれば前者が気の毒に思われ、お互いに正否を問えないと言うのが私の気持ちです。

早くに父が亡くなり、母親の手一つで私たち兄弟は大きくなりました。誠に貧乏な生活の中、ある時、民生委員のお陰で一度だけ生活補助を受けました。すると、周囲の人々から、とかくその補助のことでいやみを言われ、みじめな思いをしました。小さいながらも「クソ」と根性をむき出しにしましたが、そんな私よりも、翌月より有無を言わずに補助を断った母の強さには感動しました。

社会福祉体制はまだまだとよく言われますが、私にしてみれば、かなり社会福祉に恵まれた国だと思います。一人の人間を葬り去る力があるならば、その機会にこそ2人より3人、3人より4人と理解者を広めるべきではないでしょうか。

## ソウルオリンピック観戦記 障害者支援施設・利用者

### 旅への想い

アジアで2回目のオリンピックがソウルで行われることになった。オリンピックに私たちがいろいろな困難を乗り越えて、計画もしてきた韓国旅行まで後少しとなりました。私も海外旅行は初めてなので、今から期待と興奮でワクワクしています。

最近は円高と国際化が進むにつれて、日本人も海外へ出かける機会が多くなりました。私たちには海外旅行などは、無縁のことだと思っていました。日本から一番近い国でオリンピックの開催が決まり、4年前から南陽園でも計画がされてきて、あと数ヶ月で実現されようとしています。

オリンピックは各国から選ばれた一流選手のプレーや、華麗なる競技が生で見られてしまうような気持ちです。幼いときにオリンピックにも障害者の世界競技会があることを知り感動したことがあります。

行動範囲の狭い私たちが、海外に出かけることにはいろいろな問題があります。例えば飛行機の中は歩くことはできるか、語学が通じるのか、買い物などがうまくできるかなど、様々な難関があります。しかし、この難関を乗り越えるには少し勉強しなければなりません。

さあ、みんなで勉強して韓国へ行こう。

### 韓国を旅して

日本から一番近い国でオリンピックが開かれることになり、南陽園でもロスアンゼルス  
のオリンピックが終わったところからソウル五輪に向けて計画を立てていました。私たちは各自に障害を持っているため、なかなか旅には出る機会がありません。しかし、みんなで海外旅行に出かけるならば、どこへでも行きたいと思います。いよいよ3泊4日のオリンピックツアーの始まりです。

### 昭和63年9月29日

朝からいろいろな打ち合わせが行われた後に、私たちは空港に向かうバスに乗り込んだ。秋晴れのなかバスは快適に走り、名古屋空港に向かった。私は初めて行く国なのでガイドブックなどを参照しながら、頭の中は期待と興奮で胸が一杯でした。

名古屋空港に到着後は出国の手続きを行って飛行機に乗りました。初めての飛行機なので不安な気持ちと好奇心で一杯でした。

ソウル空港は人影もなく、秋風だけが通り抜けていくだけでした。街の中は車と屋台だけでまるで毎日がお祭り騒ぎのようでした。歩くことができれば、私も街の中を歩いてみたいと思いました。

### 昭和63年9月30日

朝からオリンピック観戦のために、オリンピックスタジアムへ向かいました。スタジア

ムの中は円盤投げや1万メートル競走が行われていました。世界の一流の大会を生で見られて大変よかったと思いました。特にパラリンピックの予告の車椅子競争に感動しました。私と同じ障害者なのに頑張っている姿を見て、私も何かの形で自分の力を何かにつけてみたいと思いました。

オリンピック観戦後は民族村を見学しました。民族村は古くからの庶民が生活してきた家や生活様式が分かるように工夫されていてよい所でした。金沢の江戸村と同じようないろいろな建物があつたが、日本との違いは村で本当に生活しているようでした。民族村の中で農村の踊りに感動と疑問を持ちました。あんなに飛び回り、めまいや息切れなどが起こらないのだろうかと思いました。夜の鍋は韓国で食べた食事の中で一番おいしく感じました。

### 昭和63年10月1日

今、韓国で一番活気のある梨泰院での買い物でした。店員は日本人に少しでも多くの商品を売るのに懸命でした。時間とお金があれば自分の物も買いたかったと思いました。景福宮は古い宮殿が現代まで保存されていて、とても立派な所でした。私は車椅子だったのであの石畳は怖かったです。

国立博物館は朝鮮半島の古代から現代までが展示されていました。古くは日本に文化などは朝鮮半島から入って来ているので、日本の博物館と似ている物もありました。素晴らしい王冠などがありました。朝鮮半島のルーツを見たような気がしました。夜は韓国の舞踊を見ました。とてもきれいな踊りで感動しました。特に大太鼓が気に入りました。

### 昭和63年10月2日

秋晴れの中、自由の橋へと向かった。朝鮮戦争で国が分断されたままで軍事境界線で改めて平和について考えさせられた。平和な国にいるから自分の国を忘れてしまいがちな気がします。現代も兄弟や両親が別れ別れに暮らしながらも、自由に会える日を夢に見ながらも自分の国を愛する姿がよくわかった。

私たちは最近よく『福祉と防衛』のどちらが必要かと議論することが多いが、どちらも必要なことがよくわかった。

初めての海外旅行で期待と不安の中でいろいろな経験をしました。今後はその経験を生かして、生活をしていきたいと思います。最後にこの旅行に協力していただいた方々に感謝をしたいと思います。

～新刊ビデオ紹介～

「'88 ソウルパラリンピック」日本選手団公式記録ビデオ

日本身体障害者スポーツ協会推薦

～ハイライト版・カラー作品～ VHS・ベーター60分 定価15,000円

ソウルパラリンピックでの、日本選手団の活躍ぶりをまとめたビデオです。

盲導犬の入場行進。アーチェリーの矢が飛び、車椅子の銀輪が激突する。4年に一度の私たちのスポーツの祭典、パラリンピック。このビデオはソウルパラリンピックで活躍した141名の日本選手団を中心に、競技の模様を映像で再現したものです。この映像を通して私たちは、より多くの友情をはぐくみ、深めてゆけるでしょう

ハンディを背負っていても、闘志に燃える選手たちはまた新しい目標に向かって走り始めた。

テープの申込先は：〒921 金沢市米丸町109番地

有限会社 リーフレットライフ

☎ 0762-91-5428

## 各地からの催し物りだより 石川県身体障害者福祉大会

資料提供者：石川県脊髄損傷者協会

12月4日（日）に金沢市本多町の石川県社会福祉会館において、第34回石川県身体障害者福祉大会が行われました。

議案審議として、①第27回身体障害者スポーツ大会成功のために広報活動や県大会の強化に努める。②手話通訳制度化の実現。③テレビ政見放送に手話通訳の挿入を。④各市町村の長期計画の完全実施の案が提出され、次のような大会宣言がされました。

### 大会宣言

わが国の経済情勢の急激な変動に伴い、国民生活も大きく変化している中で、県民の暖かい理解と協力のもと、県当局並びに関係各機関の積極的な支援と障害者自身の努力により、障害者の福祉は逐年充実されつつあり、特に「完全参加と平等」をテーマにした国際障害者年の活動・展開により、近年障害者問題の関心と理解が一段と深まってきたことは感謝にたえないところである。

「国連・障害者の10年」の後期入った本年からは、既に発表された「障害者対策に関する長期計画」の後期重点施策が完全に実施され、21世紀を展望した明るい福祉社会を臨むものである。また、昭和66年（平成3年）には第27回全国身体障害者スポーツ大会が石川県で開催されることは、まことに栄誉なことであり、この大会の成功のため持てる力を結集し、万全を期してこれに取り組むものである。

上記宣言する。

昭和63年12月4日

第34回石川県身体障害者福祉大会

※紙面の関係上、大会宣言文の途中を省略しました。

## 石川県肢体不自由児（者）協会青年部クリスマス会の集い

12月11日（日）金沢市高尾にある国際ホテルにおいて、県肢体不自由児（者）協会青年部主催によるクリスマス会が行われました。これは毎年行っている行事で今回が11回目になります。

参加者は会員を中心にし、金沢市内の在宅障害者や県立授産所の入所者をはじめ、家族・養護学校の先生・友人・ボランティアなど約70名が集まりました。

プログラムの内容は簡単なものでしたが、司会者のユーモア溢れる話しぶりもあって、暖かい雰囲気でした。カラオケ大会・くじ引き・プレゼント配り・ママさんコーラス”の合唱と、アツという間の3時間半でした。

“円”の方々には、毎年歌いに来ていただいています、そのさわやかな歌声に励まされて、感激をして帰ってゆく参加者もかなりいました。

また、カラオケ大会では12名程の人が日ごろのストレスを忘れるかのようにマイクを持って楽しんで歌っていました。

このように11回目のクリスマス会も無事終わることができましたが、当初は集まり具合が心配された割には参加者が多かったこと、「楽しかった・来年も呼んでね」と満足して帰って行かれた人も多く、有意義なクリスマス会となりました。

それにしても、どのようにすれば楽しい会になるかを十分に考え、準備されてきた佐々木会長及び萩原副会長には本当に頭が下がります。また、いつも暖かくバックアップして下さい、下さっている県肢体不自由児（者）協会の安田事務局長さんに暖かい応援とご協力には感謝したいと思います。

最後に、この会の主催に携わる一人として、家にこもりがちな在宅の仲間にもっと多く声をかけられるように、会長に要望したいと思っています。

## 第27回全国身体障害者スポーツ大会

### 愛称・スローガン決定！！

平成3年に石川県で行われる第27回身体障害者スポーツ大会の「愛称・スローガン」の募集が昨年10月に行われました。応募数は愛称は462点、スローガンは684点があり、12月に入選作が下記のように決定しました。

また、昭和天皇が亡くなったことにより、これまで「66 第27回全国身体障害者スポーツ大会」と呼ばれていましたが、「第27回全国身体障害者スポーツ大会」と呼び名が変更になりました

・愛称 『ほほえみの石川大会』

・スローガン 『ほほえみに 広がる友情 わく力』

## ～新施設開設情報～

### 身体障害者療護施設 「青山彩光苑」療護部

この4月、能登地方で初めて療護施設が開設します。場所は従来の重度身体障害者更生援護施設「青山彩光苑」の下に設立されます。

- ・設置経営主体：社会福祉法人 徳充会
- ・所在地：〒926 七尾市青山町ろ15番1
- ・規模及び構造：鉄筋コンクリート 一部2階建 延床面積2,272㎡
- ・定員：50名
- ・入所資格：身体障害者手帳1～2級を有し、常時介護を必要とする者。
- ・入所の手続き：もよりの福祉事務所又は町村役場にご相談下さい。
- ・費用：本人、家族の収入状況により費用がかかります  
(ただし、最高金額は8万円まで) (資料提供・青山彩光苑)

#### ・身体障害者療護施設とは？

法律上は、常時介護を必要とする重度障害者を入所させて治療及び養護を行う施設であり、入所定員は50名以上とされている。処置は福祉事務所によって行われる。

(参考文献・介護福祉養成講座・障害者福祉論)

## わたぼうし・広場

### 児童施設職員のセラピストとして一言 (石川整肢学園・理学療法士)

我々施設職員は、毎日子供に肌で接しながら「医療」「教育」「福祉」とは何か、それより「生きがい」とは何かと思悩むことが多い。

難しい理屈は抜きにして、我々セラピストは、いろいろな障害を乗り越えて、いかに「やらせるか」いかに「やるようにさせるか」ということが最も大切なことのように思われます。能力の低下を少しでも向上させ医療から生活の場にもどれることは、その能力の限界に挑戦し「やれない」

、という諦めというものを少しでも少なくして行かなければならないと思います。また、本人が初めから諦めて「やらない」ということや、周囲が始めからやれないものと決めて「やらせない」というようなことは、早急に改善していかねばならない問題だと思います。

特に脳性麻痺者の場合、加齢していく経過の中に求められる成人期の総合的な健康管理が機能低下、あるいは症状の発現に大きく関わってくるものだと思います。

社会人になると、障害児の時のような医療的管理や訓練を定期的に受けられる機会が減

少してしまうので、年長以降の訓練保証体制がしっかりしないと早期の意義も半減してしまいます。この問題を解決すべく現実にもてる力を更に伸張するよう、磨きあい、励ましあってお互いに心の支えを持ち、常に前向きに考えて行きたいと思っています。

#### ・セラピストとは

セラピストという言葉には、治療学者・臨床医家という意味があります。一般には療法士といわれています。その中には、PT（理学療法士）・OT（作業療法士）・ST（言語療法士）などが含まれます。

## 障害者と介護 障害者支援施設・利用者

僕は最重度の障害者である。つまり、自分一人では生きていけない人間なのである。

そのため、現在僕は医王病院において入院生活を送っている。その生活も今年で14年目になるろうとしている。僕の病気は進行性なので次第に衰え介護を要する部分が増えてきている。今では、腕を上げることも足を伸ばすことも自分ではできない。

僕の生活空間は、介護なしでは考えられず、介護をしてくれる家族・職員・友人の存在がなければ僕は一日たりとも、生きていけないという宿命を背負っている。この宿命は多くの重度障害者が等しく背負っているものである。僕の人生は、言ってみれば運動会の二人三脚のようなものだ。だが、僕の場合は運動会と違って一生続くのである。病院にいる時は看護婦さんに世話をしてもらい、家に帰省した時は親に面倒を見てもらわなければならない。また、友人と旅行に行った場合などは、身の回りの世話を友人に頼まなければならない。このように常に誰かがそばにいないといけないので、時には馴れ合いになったり、互いに気まずくなったりすることがままある。しかし、僕のような重度になると、介護の内容も複雑になり、その分、介護者にかかる負担が大きくなるので大変である。そのため介護者が体をこわしたり、障害者自身が気持ちがふさぎ込んだり、何となく気まずくなったりするのである。こうなると、人間関係にヒビが入るのでうまく対処しなければならない。

まず、気分転換を図り、リフレッシュすること、特定の介護者に依存しないこと、さらには、創意工夫による補助具の開発などが上げられる。それには個人だけではなく地域を巻き込んで、もっとグローバルにアグレッシブに取り組むべきである。そのためには、介護問題の総合的なシンポジウムをやることを提案したい。いかがですか？皆さん！

## 「わたぼうし新聞」新年度計画決定！！

当新聞の平成元年度計画編集会議を昨年12月18日に行いました。その結果、新年度より今までの福祉問題記事中心路線から、皆さんが楽しめる記事をも掲載して行くことになりました。

新年度のテーマは下記のように決定しましたので、皆様のご協力をお願い申し上げます。

①私の趣味・②私の夢・③お金もうけの方法・④私のペット・⑤私とお酒

### ワンちゃん・ニャンちゃん大集合

～ワンちゃんの巻～

地域住民・老人施設 介護職員

- ・名 前ーボス
- ・性 別ーオス
- ・年 令ー1年2ヶ月
- ・特 徴ー芸としてお手ができる。“ワン”とほえる
- ・毛の色ーブラウン
- ・毛の質ーふわふわ
- ・好 物ーアイスクリーム・あらびきソーセージ・牛乳・シュークリームとすごいぜいたくな物が好物です。

### ～ボスについて一言～

性格は落ち着きがなく、寂しがり屋。おまけにやきもちやき。どうしようもないけれどかわいいのです。

昨年8月下旬に夏バテしてしまって、3日間入院して点滴を打っていました。現在は月に一回必ず病院に行き、検査をしてもらって病気にならないようにしています。はっきりいって、みんなは「ぜいたく」と言いますが、飼い主の私もそう思っているから仕方がない。

食生活では人間よりうちのボスの方が豪華なメニュー。ご飯にみそしるなんて、生まれて今日まで口をつけたことがない。それを差し出すと自分の口で皿を移動させ、その上へ毛布をかぶせてしまうからしょうがない。じゃあ何を食べるかって？ドックフード、それもただのドックフードは食べない。ちゃんと缶詰のドックフードと粒のドックフードを混ぜないと食べない。本当にどうしようもないぜいたく病の犬です。

## 本の紹介

### チェックのブラウス

紫藤 幹子著 自費出版 定価 1,000円 送料200円

「花束を作るように選んだ」という詩9編と短歌67首、倉敷へ一人旅した時の紀行文が収められている。「障害者であることよりも女であることの方が大きいし重たい」というあとがきがある。

女性の障害者にとって、少女から女に移り変わる時期に多少なりとも、“悲しみ”を味わうのではないのでしょうか。「女」であることから目をそらさず逃げることをしない紫藤さんに強さを感じたのは私だけでしょうか。(M.M)

- ・ひとことが強力精神安定剤 副作用して不安定剤
- ・ふぞろいのきゅうりの輪切り この厚さドレッシングを愛でフォローす
- ・首かしげ終わろうとする恋一つ プリズムかざすように見ている

## 編集局より

新年度より、皆様に楽しんでもらえる柔らかい内容の新聞にして行きます。

さしあたり、16号のテーマ「私の趣味」を広く募集します。魚釣り・ワープロ・演芸・写真など、あなたの楽しい趣味を自由に800字以内にまとめて、事務局に提出してください。詳しい図面・説明などがあれば大歓迎。！！

また、各地の催しものを多数掲載して行きたいと思っておりますので、情報をお寄せ下さい。

## 編集後記

如月、もう立春も過ぎ暦の上では春。受験のシーズンでもあります。

この時期になると、思い出されることの一つ、私の時代は障害者が普通校へ入るのは難しい時代でした。

受験日一週間前になり、体育の単位が取れないという理由で受け入れられないかも知れないと高校側からの通知でした。その時のくやしき、でも受験しました。帰途一度も学校というところへ来たことのない父の迎えを受け、もういいと思いました。結果、合格したのですが……。

当時より社会の見る目が違って来たとはいえ、いつの日か障害者も自分自身で選んだ学校へ入れる日が来るでしょう。そう願いたいですね。(M.M)